

講演会「子どもの本よ、世界へ届け！」

— ミュンヘン国際児童図書館の目指すもの」を開催します。



国立国会図書館国際子ども図書館では、2月25日（日）、欧州の代表的な児童図書館であり国際的な児童書の研究センターとしても知られるミュンヘン国際児童図書館(ドイツ)のクリスチアーネ・ラーベ館長をお招きし、講演会を開催します。

難民問題、ジェンダー、セクシャルマイノリティ、アイデンティティの探究……。現代の世界にはさまざまな問題がありますが、世界の子どもの本はこうした問題とどのように向き合っているのでしょうか。

また、子どもの読書離れが世界共通の課題となっている今、各国の児童図書館はこうした課題にどのように取り組んでいるのでしょうか。

今回の講演会では、ラーベ館長に、世界の児童書・児童文学の振興や文学における多様性の保護を使命とするミュンヘン国際児童図書館の概要と、近年の取組をお話しいたします。

【お問合せ先】

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課広報係 03-3827-2041(直通)

【開催概要】

講 師：クリスチアーネ・ラーベ博士
(ミュンヘン国際児童図書館長)

使用言語：ドイツ語 (日本語の逐次通訳あり)

日 時：平成 30 年 2 月 25 日 (日) 14 時～16 時 30 分

場 所：国際子ども図書館 アーチ棟 1 階研修室 1

(東京都台東区上野公園 12-49)

対 象：中学生以上 (定員 130 名)

参加費：無料

申込み方法：電子メールにより受付 (先着順)

※国際子ども図書館のホームページから詳細をご覧ください。

(<http://www.kodomo.go.jp/event/event/event2018-01.html>)

【講師略歴】

世界の児童書を収集し、国際的な児童文学研究の中心として研究者にサービスを提供する、ドイツ・ミュンヘンの国際児童図書館館長。ドイツ・ブラウンシュヴァイクの美術アカデミーで美術を研究した後、工科大学ブラウンシュヴァイクで歴史、哲学や教育学を学ぶ。その後、ベルリン自由大学において中世史で 1993 年に博士号取得。出版社 K. G. Saur の原稿審査部長を経て、2007 年から現職。

ミュンヘン国際児童図書館 (Internationale Jugendbibliothek) とは？



図書館内の
ミヒャエル・エンデ・ミュージアム



図書館の建物であるブルーテンブルク城

世界の絵本
読み聞かせイベントの様子



①ブルーテンブルク城に約 130 言語 60 万冊を所蔵する欧州の代表的な児童図書館

子ども向けの貸出図書館、研究資料室、児童書作家のミヒャエル・エンデ、ジェイムス・クリュス、エーリヒ・ケストナー、画家のビネッテ・シュレーダーのミュージアムから構成されています。

②第二次大戦後、荒廃したドイツの子どもたちのためにレップマンが設立

第二次大戦後、ドイツの惨状を目の当たりにしたレップマンは、子どもたちには「精神の栄養」が必要と考え、20 か国から約 4000 冊の本を集め、国際児童図書展を開催しました。この展示会が契機となり、1949 年にミュンヘン国際児童図書館が設立されました。

③「子どもの本を通じた国際理解」という理念に基づいて活動

企画展示・巡回展示、講演・講座、学校向けプログラム、国際推薦児童図書目録『ホワイト・レイブンス』ⁱⁱの刊行、世界の詩の絵本を集めたカレンダー「ノアの箱舟」のための選書、奨学金研修生受け入れなど幅広い活動を行っています。

ホームページ：<http://www.ijb.de/home.html>

ⁱ イエラ・レップマン (Jella Lepman) ユダヤ系ドイツ人。国際児童図書評議会 (IBBY) の設立に携わる。

ⁱⁱ The White Ravens 白いカラスのようにめったに見られない優秀な作品の意が込められている。